

8  
222  
Ⓜ

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始





8  
222

旅

社

京  
信  
局

小  
山  
信  
局

一  
等













伊豆群島  
父島



父島二見灣口烏帽子岩

伊豆の南方洋上凡二百里餘の所に一塊の群島あり小笠原島といふ甘島より成り周圍延長七十二里餘母島最も大に父島是に亞ぎ兄島姉島妹島等其周邊に基布す總て東京府に屬す  
父島は面積四万餘畝の在る所二見灣は唯一の港灣にして港口左方に烏帽子岩あり



野牛島

烏帽子岩と相對して野牛島あり洪濤岸角を搏つ所一箇の洞門あり彼の江の島の窟に比しては小なるも洞内暗黒曾て米國使館ハルリの探險せるあるのみ







## 二見港

島内唯一の最良港灣なれども  
怨むらくば海岸一帯珊瑚礁よ  
りなる圖に現はれたる陸上の  
小舟は所謂カノナリ



港内より大村を望む

大村は島廳所在地にして本島の都會なり物産を鬻ぐもの多  
密獵船の爲めに賣る所の洋字  
看板の酒店割合に多し







小笠原島廳

東京府に隸屬して本群島を管轄す現住島司は阿利孝太郎氏



## 歸化人住家

ジョージゴントなる歸化人の住家にして同人  
は最も古く本島に來り今は教會を司る  
歸化人の多くは捕鯨船或は密獵船の船頭に  
て父は米或は露母は南洋土人なり故に其兒童  
概れ半黒種なり







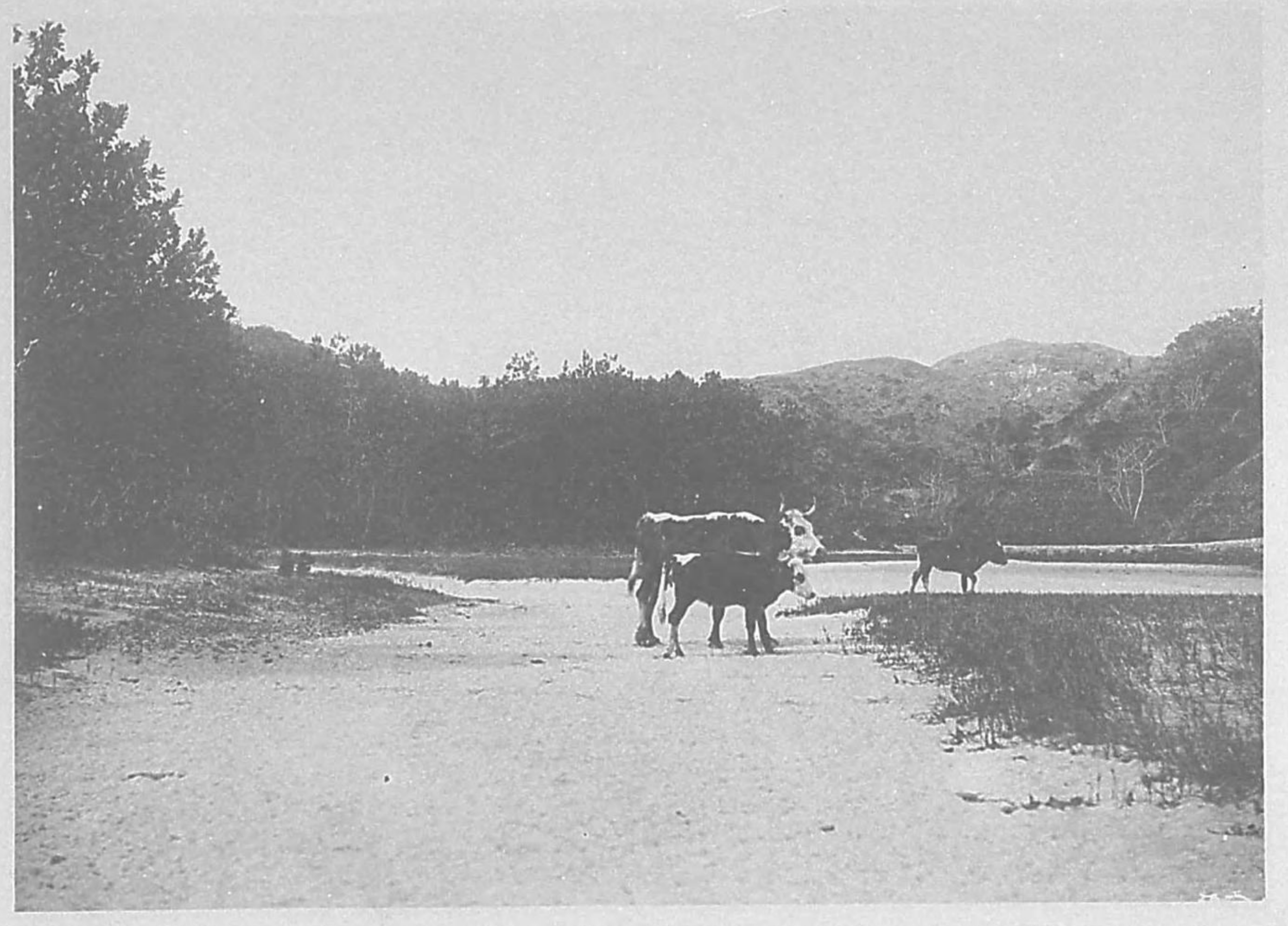
### 彼理貯炭所跡に 於ける歸化兒童

抑も本島は洋中の一孤島に過ぎざれども我邦に對しては重大なる關係を有すされは利に敏なる外國人等は常に注目して措かざる所にして殊に彼の浦賀に開港を迫りたるコンモドア、ペリーの如きは夙に本島を假泊地となし貯炭所を設け一朝事起るの際に備へたり其警眼は實すべし圖の木標は則貯炭所跡なり歸化兒童は孰れも不十分ながら日本語を解し我小學校に入學せり



父島牧場

彼の天日製鹽業に失敗して一時世上に名を得  
たる田中鶴吉が茲に牧畜を試みたる遺跡の一  
天然の形勢氣候新業に最も適せり附ていふ本  
島氏は田中を賞揚するもの一人もなく却て萬  
口一齊大山師なりと稱せり





扇浦の鼻

大村の對岸を扇浦といふ圖は  
腕の如く舒ひたる岬を寫せり  
岬頭の樹木は椰子なり







扇  
浦

數十戸の小村なれども學校あり  
土民多くは製糖事業に従事す





### 島民住家

本島氣候溫暖冬なければ造家  
法從て簡に涼を取らんが爲め  
に壁及び屋根は皆椰子葉を編  
みて造る



洲  
崎

扇浦より背後の小丘を越ゆれば洲崎にして既  
に外洋に面し遙かに羅列せる群島を見る近傍  
は皆甘蔗畑なり圖の水上に浮へるは例のカノ  
ーに乗りたる我海軍士官なり





明治三十二年七月三十日印刷

(旅の家土産第九號)

明治三十二年八月五日發行

(非賣品)

發行兼印刷者

中尾新太郎

東京市赤坂區田町七丁目四番地  
光村方寄留

發行所

光村寫眞部

東京市赤坂區田町七丁目四番地

印刷所

光村寫眞製版部

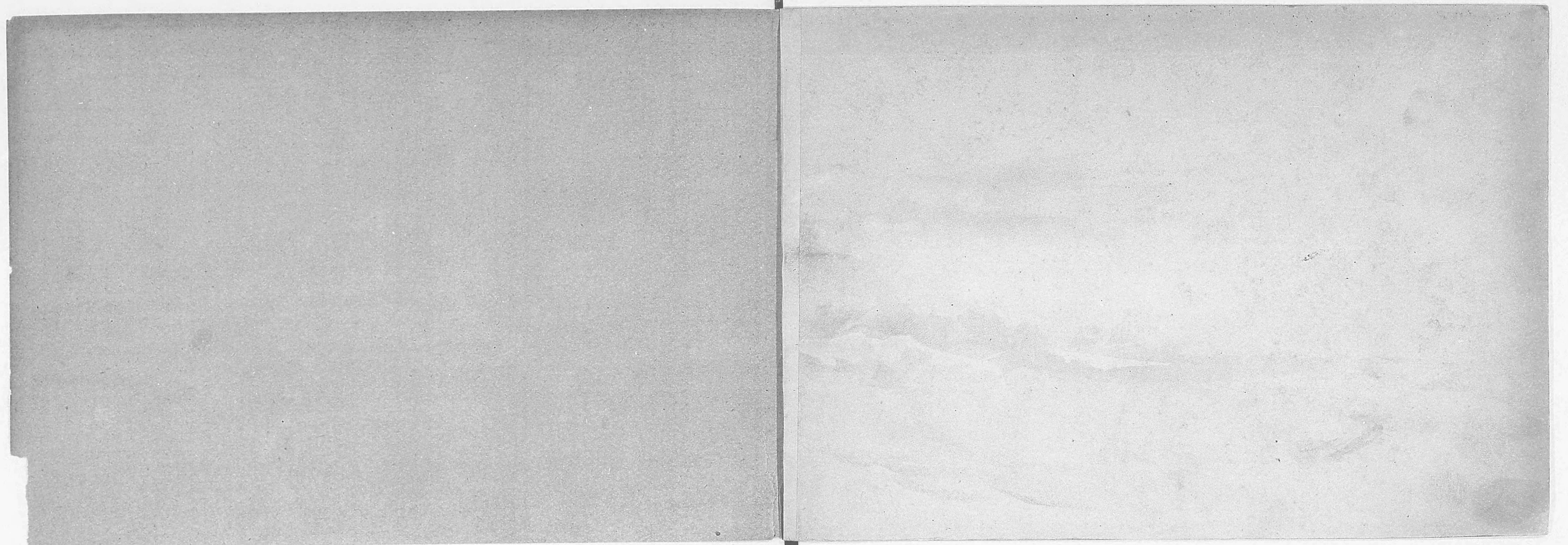
東京市赤坂區田町七丁目四番地



8
222









8  
323



終

